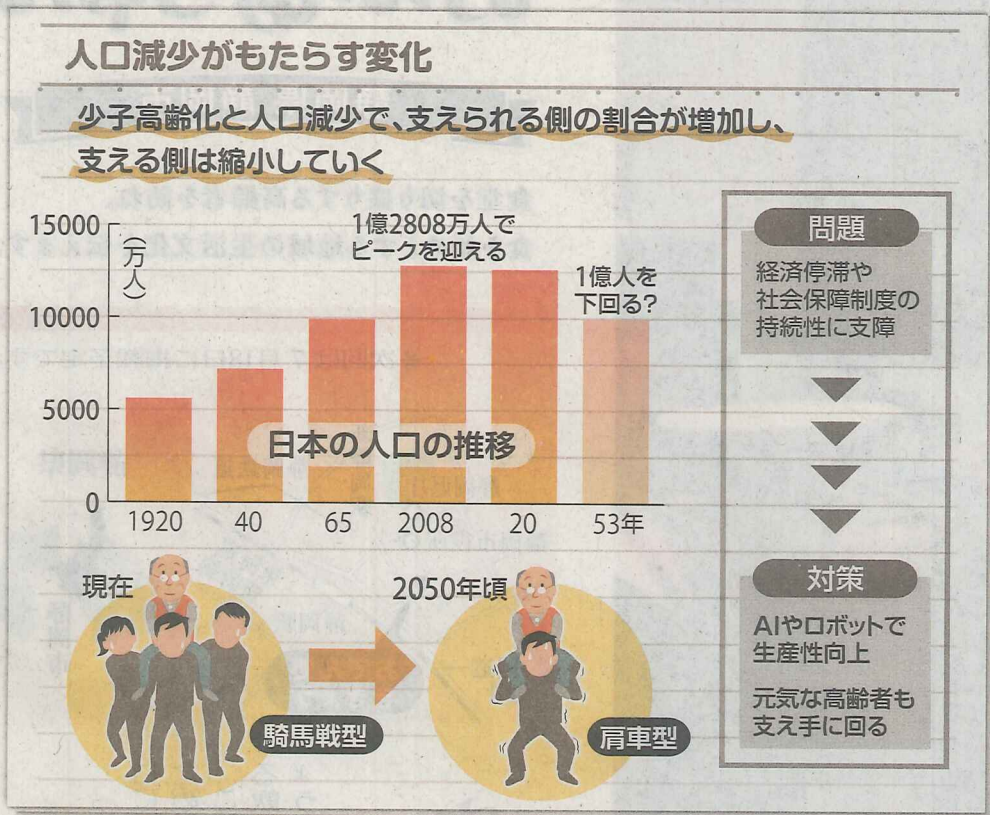


安心の設計

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい
 メールansin@yomiuri.com ファクス03・3217・9957



<No8>

日本の人口減少

現役世代に重い負担

教授 国勢調査の総人口の数値を基に人口減少を考えてみましょう。今の状況は知っていますか。

ゼミ生 はい。外国人を含む今の人口は1億2000万人くらいです。2008年をピークに減少局面に入っています。

教授 そうですね。人口は減り続け、53年には1億人を割ると予測されています。出生数の減少が加速すれば、更に早く割り込む可能性もあります。人口1億人は、日本経済が高度成長期だった1965年とほぼ同じ規模です。

ゼミ生 当時は人口が増加していたのですよね。

2～3人で1人支える

教授 その通りです。現在は既に減少局面で、人口構成も全く違います。現役世代の人口割合が減り続けており、公的年金や介護保険など社会保険料の負担が重くなっています。65年当時は高齢者1人を現役世代10.8人の割合で支える「おみこし型」でした。現在は高齢者1人を現役世代2～3人で支える「騎馬戦型」と言われています。これが50年には高齢者1人を現役世代1.4人で支える「肩車型」になると見込まれています。

ゼミ生 肩車ですか。支え手の体力が心配になります。

高齢者が働ける場を

教授 国は元気で意欲のある高齢者が、働きやすい環境を整えようとしています。現役世代が減少しているので、高齢者にも社会保障を支える側に回ってもらうことが狙いです。

ゼミ生 定年退職後も働きたいと考える人は多いと聞きます。ぜひ経験を活かしてほしいです。

教授 人口減少の影響は他に何かあると思いますか？

ゼミ生 国内でモノやサービスが売れる量も減りそうです。

教授 そうですね。利用者が減れば、鉄道やバスなどの地域公共交通機関が廃止される事態も起こります。モノが売れなくなれば、製造業が衰退し雇用の悪化につながる可能性もあります。

ゼミ生 地域社会はどのような影響を受けるのでしょうか。

教授 若い人が減ると、自治会や消防団などの担い手が不足し、これまでどおり活動できなくなる恐れがあります。子育て支援の充実などで暮らしやすい地域を作り、活力維持を図っていく必要があります。